

## 9月5日（木）授業研究会

### 1 はじめに

呉市立川尻小学校 校長 山田 幸治 先生をお迎えし、6年1組で道徳科の授業研究会を行いました。山田校長先生には、道徳学習プログラムや道徳科の学習の流れについてご指導いただき、今後の授業づくりのポイントをご示唆いただきました。安心感のある受容的な学級風土の中、先生の笑顔と真剣な児童の表情が印象的で、多くのことを学ばせていただきました。隆杉先生、宇多先生には、2学期初めのお忙しい中、授業を提供していただき感謝しております。ありがとうございました。

### 2 研究授業

(1) 道徳科 主題名：世のためになる仕事【内容項目 C 勤労・公共の精神】

教材名：「桜守の話」（東京書籍）

(2) 授業者 第6学年1組 担任 隆杉 佳代 教諭  
生徒指導主事 宇多 弘典 教諭

(3) 本時のねらい

桜守の心を大切にしている佐野さんの思いに共感することを通して、自分の仕事に誇りと喜びを見出し、生きがいをもって仕事をする大切さに気付き、社会のために役立とうとする心情を養う。



### 3 研究協議会

協議の柱1： 家庭や地域と一体となった体験活動との関連を図った「道徳学習プログラム」の工夫は、どうだったか。

協議の柱2： 児童の多面的・多角的な思考と価値観への気付きを促すための教師の発問の工夫はどうだったか。

#### (1) グループ協議会

上記の協議の柱をもとに、グループ協議で出された主な意見を紹介します。短時間でしたが、活発に意見が出されました。

- 総合的な学習の時間が生かされていて、よい学習プログラムだった。
- 地域の方へのインタビューを真剣に児童が聞いていた。ポイントを絞ったインタビュー形式の映像が大変良かった。
- 「佐野さん」の仕事にしっかり共感させるとよかったのでは。

- 家の人の仕事への思いをインタビューしたり，掲示物で学習の足跡を残していたのがよかった。
- 授業の最初に児童が本時で学びたいことのテーマを設定するとよいのでは。
- 長い文章で，身近な話ではないので，事前読みをするとよいのでは。
- 切り返しの発問が用意されていた。
- 児童の意識の流れが途切れないような発問にするには，どうしたらよかったですか。

## (2) 指導講話

- 本校が指定を受けている「メニュー3」は大変重要なものである。今後も家庭や地域としっかり連携してもらいたい。
- 隆杉先生の笑顔は安心感を生み，共感的な人間関係を築き，温かい風土を生み出している。児童は，書くことが得意で，大変落ち着いているので，自分の思いを発言できるようになるともっとよい。
- 課題意識をもたせるために，本時ではテーマ設定をするとよかったと思う。事前読みをさせたり，感想を書かせておくこともよい。
- 先生の切り返し発問がたくさん用意されていたが，子どもたち同士が切り返すことを目指すとよい。「わからない。」「もっと聞きたい。」と子どもたちが交流し議論するようになりたいものだ。それが協働的な学びにつながるのだから，簡単にはできないが，そこを目指したい。
- 「比較すること。」を徹底させたい。自分の考えを伝えるだけでなく，自分の考えと他者の考えを比較し，自分の価値観を見直すことが楽しさにつながる。積み上げていくことが必要。
- 道徳学習プログラムはとてよいため，自信をもって研究を進めてほしい。
- 発問はねらいを明確にし，児童の意識の連続を図りながらつくっていききたい。

## 4 最後に

本校が行っている道徳学習プログラムを評価していただきました。また、「メニュー3」の委託を受けたことで，家庭や地域と連携した道徳科に私たちの意識が向いたことは，大変良い効果を生んでいると思います。自信をもって，今後の授業にも生かしていきたいと思います。

山田校長先生にご指導いただいたように，道徳科においても協働的な学びを作り出していきたいと思っております。自分の思いをもち，他者の考えと比較し，自分の価値観を磨いていくことで，道徳科の授業の楽しさを感じさせ，学びを深めていきたいと思っております。

ご指導いただいた，呉市立川尻小学校 山田幸治校長先生に大変感謝しております。また大変お忙しい中，授業を提供していただいたお二人の先生方に多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

